

平成30年度北海道小学校長会地区活性化支援事業【実践事例レポート】



- 1 報告地区 : 帯広地区
- 2 事例報告学校名 : 帯広市立開西小学校
- 3 報告者 : 校長 野中 利晃
- 4 キーワード : 地域との連携・協働 地域の特色を生かした教育活動

1 はじめに

本校は、昭和60年に帯広市西部地域開発に伴って帯広川伏古地区に開校された小学校である。近郊には、「帯広の森」や「各種運動施設」がある他、大きな公園も隣接されており、学習環境・自然環境にも大変恵まれている。



開校当時より「地域との連携・協働」を重視した組織づくりや教育活動が展開されており、「帯広川伏古地区子ども水辺協議会（ふるさと学習）※以下帯水協と記述」や、「L a L a クラブ（放課後・土曜日の居場所づくり）」、「おひさまの会（図書ボランティア）」、「登校時の見守りボランティア」他、多くの方々の協力の下、子どもたちはのびのびと健やかに学んでいる。

本レポートでは、その中から、平成22年度より教育課程に位置付け、帯水協と連携し行っている「水辺の学習」について報告する。

2 人と自然・自分と人がつながる教育活動 ～水辺の学習～

本校では、今年度「みんな大好き開西小学校～信頼される学校を目指して～」を重点目標に掲げ、学校と保護者・地域が連携・協働し「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を育む教育活動を展開している。

「水辺の学習」では、ふるさとの自然や命のつながりについて学習を深めるとともに、確かな知識（知）と自然愛護（徳）、川との共生や安全管理（体）などを、自然との絆や地域の人々との絆を深める中で、重点目標の具現化につなげるものである。

(1) ねらい

本校校区内を流れている帯広川の自然を活用した体験的な活動を通して、

- ・児童が身近な川辺に親しみ、学習することで、自らが暮らす地域の自然の豊かさを感じ、郷土愛を醸成する。
 - ・地域の方との交流や勉強会を通して、児童が地域の中で育まれていることに気付き、地域の人々との絆を深める。
- ことを目的にし、実施している。



(2) 具体的な活動の様子

① サケの稚魚の放流

平成30年4月28日、学校に設置している水槽の中で育ててきたサケの稚魚を学校から500mほど離れた帯広川に放流する活動を実施した。

「4、5年後にまたこの場所に戻ってくるように」と子どもたちは願いながら数匹ずつ放していた。

子どもたちは、十数名の帯水協ボランティアからサケの生態について説明とともに、放流の支援も行っていただいた。

活動を通して、子どもたちは地域の自然の豊かさや生命の神秘について感じ取ることができた。



② 水辺体験学習

平成30年7月23日、24日、8月23日、1～3年生を対象に、生活科や総合的な学習の時間に位置付け、「水辺体験学習」を実施した。

体験学習では、帯水協ボランティアの指導の下、帯広川に生息する魚や昆虫等水棲生物を捕獲・観察するとともに、河川の生態系について学ぶことができた。



また、授業の後半には、「川流れ」など

の帯広川に親しむ活動も設定されていたが、その際の安全管理についても20名ほどの帯水協ボランティアが担ってくれていた。

身近な帯広川に関心を寄せ、環境問題に対して自ら考え判断し、行動できる資質・能力を身につける貴重な機会ともなった。



③ サケの受精体験

平成30年10月29日、2年生を対象に生活科の学習の一環として「サケの受精体験」を実施した。

サケがどのように成長していくか。また、どのように受精させると稚魚として生まれることができるのかなど、実習も含め学ぶことができた。

実際にサケについて知り、受精体験も行ったことにより、これまで学校で飼育され、春に放流したサケについての興味・関心が高まった。また、サケの帰郷・生存率の話から、生命の尊さについても実感することができた。



④ 日常的な観察学習

受精させた卵は、11月から4月まで、本校の児童玄関に設置されている水槽内で育てられる。そこで、子どもたちは、登下校の際に成長を観察し、命が生まれ育っていく学習を継続的に行っていく。また、その間続く帯水協のボランティアとの交流を通して、人と人の絆を深める重要性にも気づくことができる。

⑤ 他教科への発展

帯広川を活用した「水辺体験学習」や「サケの受精体験」は、生活科や総合的な学習のみならず、道徳科の「生命の尊さ」「感謝」や2年生の国語科「サケが大きくなるまで」、5年生の理科「流れる水のはたらき」「めだかの誕生」等にもつながっていく。

これらの学習を教育課程に位置付け計画的に学びを展開させたことにより、子どもたちは、興味・関心が高まった状況で学習に臨んだり、関連付けて学んだりすることができ、学習内容もより深く定着することができた。



⑥ 情報発信及び共通理解の促進

取組は、常に学校だよりやホームページ、校舎内の掲示板を活用し、広く情報発信している。また、帯水協のボランティアとの打合せ会議も定期的に行い、取組のねらいや今後の方向性が共通理解できるように配慮している。このことにより、学校と地域が同じベクトルで児童に向き合うことができた。

3 おわりに

「水辺の学習」の取組を通して、地域との連携・協働体制を確立し、特色ある教育活動を展開したことにより、児童に自らが暮らす地域の自然の豊かさや尊さを感じ取らせるなど郷土愛を醸成することができている。また、地域の方との交流を通して人と人の絆を深めることができ、人間力の素地を育成できたなど本校重点目標の具現化に大きな役割を果たしている。